

## やればできる！3年生からの留学

田原 雅康

3年生の秋学期から約10カ月間、アメリカのカリフォルニア大学デービス校にCSプログラムで留学に行きました。留学した理由は、実践的な英語力を身に付けることと、異文化交流の経験を積むことが「将来は海外で仕事をする」という自分の目標を達成するための近道だと考えたからです。留学する上で、英語力や就職活動への支障など不安な点も多々ありましたが、それでも留学することに価値があると考えました。

留学した当初は、アメリカ人とスムーズに会話をすることができず、発音や表現力を必死で磨く必要がありました。そこで、現地ではなるべく日本人と関わらないように心掛け、現地でもできたネイティブの友達にお願いして発音を直してもらったり、わからない表現を積極的に教わったりなど、周りを巻き込んで様々な努力をしました。また、授業で課される大量のレポートやリーディングをこなすことにより、留学が終わるころには、読む・聞く・話す・書く英語スキルを飛躍的に伸ばすことができました。



就職活動に関しては、アメリカにいてもできることを精いっぱいやろうという思いのもと、毎年11月末に開催されるボストンキャリアフォーラムに参加しました。また、3月の情報解禁に合わせた各種WEBエントリーや、帰国後に面接日程を調節してもらうためアメリカからメール等で企業に対して様々な依頼を行いました。就活を志す仲間を現地で集めて内定獲得にむかって一緒に取り組んだことも、モチベーションの維持につながったと感じています。結果、帰国後に志望していた企業から内定を頂き、将来海外で仕事をするという目標に一步近づくことができました。

振り返ってみると、英語力を伸ばす努力をしたことや就職活動に真剣に取り組んだことを通して得たものは、決して実務的な能力だけでなく、人間的にも大きく成長できた点にあると実感しています。今まで自分だけでなんでも解決しようとしていた私にとって、友人に勇気を出して助けを求めること、一人ではできないことを仲間の協力を得て達成できたことは大きな成長であったと言えます。勉強と就職活動の両立は確かに大変でしたが、時間を見つけては友達と遊びに行くことも忘れず、存分に留学生生活を謳歌することができました。



留学するには、費用、言語能力、就職活動など、不安になることが尽きません。しかし、それでも一步踏み出す価値はあると感じていますし、自分の身をもって証明することができたと思っています。一生懸命に目の前のことに取り組んだ経験は、振り返ってみるととても充実したかけがえのないものになるはずです。

皆さんもチャンスがあるなら是非、留学に挑戦してほしいと考えています。想像もできない素敵な出会いや、大きな学びが皆さんを待っています。

**Personal Data** 田原 雅康 (たはら まさやす)

留学先：カリフォルニア大学デービス校 (米国) CSプログラム

留学期間：2015年9月～2016年7月 (留学時の学年：3年生)

ゼミナール：国際協力と平和構築 (山田満ゼミナール) 所属